

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

2016

冬

12月1日発行(季刊)

文化通心



讃岐をデザインした邦坊さん

讃岐を代表する名物かまどや琴平の灸まん。ぶどう餅に、ひょうげ豆の包装紙など。更には、山田家うどんやわら家うどんの店舗デザインなどを手掛けたのが和田邦坊さん。独特の民芸調の画風は香川のひとつのイメージになっています。今回ご紹介します西谷美紀さんは、和田邦坊の研究をしています。今年度、第一弾のレポートが完成するのが楽しみです。

(写真は職場の四国村・撮影：大池翼)

あ・うんの数寄講座「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」その2

中條文化振興財団 茶室設立二十周年記念茶会「武者小路千家の春」—その伝統的職分家と共に—
12月から2月までの茶華道・イベント情報
財団の活動報告とお知らせ

92

発行・公益財団法人中條文化振興財団
〒760-0017高松市番町2丁目1番12号
TEL. (087) 826-3355 FAX. (087) 826-2212

あ・うんの数寄講座 その二

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

■第三回 八月二十八日(日)
「仏教と禅」

講師：松山 大耕

(妙心寺退蔵院 副住職)

私の様な普段、仏教に縁のうすい者には、敷居が高そうに思われましたが、講師の第一声の「おはようございます」の声の大きくなりっぱなし、又大変お若い様で少しホツとしました。

初めに、茶禅一味と書かれ、お茶と禅について話され、仏教はインドから中国を経て日本に伝わりました。アジアにおける仏教と日本の仏教の大きな違いの一つとして、アジア地域の僧侶は、結婚、酒、肉、魚等は禁止されていますが、今の日本においては絶対禁止と云う事ではなく少々ゆるやかなそうです。

ルールは厳しいが、規律はゆるい、日本はその反対にあるそうです。云いかえれば修行が大変で禅とは実践体験する事だそうです。

お釈迦様が体験された事と同じ事をしようとしても、長い間に少しずつ変化する事もあります。内には千年も変わらない宗教もあるそうです。

修行を積み重ね、禅の世界では物を生かし、物を使いきるのです。何一つ無駄な物はないとの事。たとえば石庭を觀賞するの縁側から座って見るのが良く、石庭は十五個の石で成り立っています。十五と云う数は完全の意味があり見方によつては、全部の石は見にくいそうです。それに白砂が敷かれています。薄暗い僧堂の内側より見れば、白砂に太陽や日の光を反射して堂内が明るくなる。白砂の線引にしても集中力がいらいます。禅においては何か目に見る所と見えない所もとても大切にします。

普通の野菜料理でも精進料理となると大変手間がかかります。禅の修行が出来た人が作ると一段とおいしくなるそうです。知識として持っていて役に立たない、実践してこそ自分の物となります。

禅に学ぶ伝え方
一、口伝の意義

技術を教えるのではなく、教え方を教えている

二、云われたことはしない

云われた事だけでなく、自分の目で見た事をする

三、わざと教えない

自分で考える時間を与える

四、上手に継承していた人の特徴

何をしたら良いかと云う事は時代によつて変化するが、これだけはやらないという事は変えてはいけない、

人としての事をしっかりと
五、瞬時に動く
人の心をつかむにはまず動く
六、能力ではなく「働き」が大事
世の中は皆不合理である
いかに工夫すべきか

いろいろ禅に関する話を私達にもわかりやすく、時間も気にならない位楽しく、かみくだいて話をしていた。きかたがたに気分になりましたが、これがどこまで頭に残っていることや申し訳ない事です。又機会がありましたら、仏教とか禅についてお話を聞きたいと思いました。



■第四回 九月三日(土)
「利休の言葉」

講師：熊倉 功夫

(MIHO MUSEUM 館長)

茶の湯をさらに楽しむ講座第四回は利休研究の第一人者である熊倉功夫先生による利休の残した言葉から彼の目指した茶の道を知ろうというものです。

利休が生まれたのは一五二二年。堺の有力な商家に生まれた利休は若年より茶の湯に親しみ堺の南宗寺に参禅し、その本山である京都大徳寺とも親しくしていたことから珠光の茶の湯に大きな影響を受けていたと思われます。

村田珠光が生まれたのは利休よりちょうど百年前です。

一休宗純との関わりから禅を学び、能や連歌の精神的な深みと茶禅一味の精神を追求し、わび茶の精神を提唱したのが村田珠光です。質素な中にも、深い味わいのある茶の湯を求め、四畳半の茶室を作り今に繋がる茶の湯を作り上げたといわれています。そして、その茶の湯は奈良・京都・堺などの裕福な商人や、戦国大名の間で盛んになりました。

信長とは利休四十六才の時に今井宗久、津田宗及が催した堺での茶会で出会い、その後信長が室町幕府を滅ぼした直後の七五年、利休五十三歳の時に京都・妙覚寺で開かれた京都や堺の茶人十七人を招いた茶会で茶頭を務めています。

本能寺の変の後には秀吉に仕え一五八五年の禁中献茶に奉仕しこの時に宮中参内するため居士号「利休」を勅賜しました。その一方で草庵茶室の創出・楽茶碗の製作・竹の花入の使用をはじめなど、



わび茶の完成を目指していきます。

今回の講座最初の言葉は「水を運び、薪をとり、湯をわかし、茶をたてて、仏にそなえ、人にもほどこし、我も飲む」。

この言葉は比叡山を開いた最澄伝教大師の言葉と言われる「利他自利」を表しており、利他を実践すればいつかは巡り巡って自分の利益になるというような考え方はなく、「利他の実践がそのまま自分の幸せなのだ」ということです。人をもてなし仏に仕えるという行為そのものが茶の心であり自身の幸せであるということ、この言葉に禅僧であった珠光の影響が感じられます。

次の言葉は「家居の結構、食事の珍味を楽しむとするは俗世間のことなり。家はもらぬほど、食事は飢えぬほどにてたることなり」。立派な建物や珍味を味わうことが茶の湯の楽しみだと思ふのは俗世間のことで家は雨がもらねばよく、食事は飢えぬほどで十分であるということです。この考えは信長、秀吉の豪華な茶

会に対するアンチテーゼであり、利休の目指した「わび茶」に繋がるものだと思います。

他にも色々な言葉をお聞きしましたがやはり一番印象に残ったのが「夏はいかにも涼しきように、冬はいかにも暖かなるように、炭は湯のわくように、茶は服のよきように、これにて秘事はすみ候」。

茶の秘事を聞かれた時の言葉で、いくつになっても当たり前のことを当たり前にすることの難しさ、辛さ苦しさを表した言葉だそう。これも禅宗の教えに繋がる考えのように思いました。

戦国時代には戦で勝利すると茶会を開き、功をなした武将には茶器を与え武勲を称えたといえます。利休の目指した茶の湯は与えるものではなく、茶会に出たみなが幸せになるというものだったのでしよう。

■第五回 九月四日（日）

「諏訪蘇山と青瓷」

講師：諏訪 蘇山（陶芸家）

講師ご紹介でお部屋に入ってこられた蘇山さん、笑顔でご挨拶され講師席に着かれ、焼き物の道に入られた初代の生い立ちからお話を始められた。

幕末、加賀藩士の家に生まれ、十四才で家督をつぐが、明治維新で禄を失い一族を養うためいろいろと模索され苦勞をされた。しかし、この時期に西洋の学問（化学）に触れたことが、後の焼き物に役立つ事となる。二十三才、九谷で陶画を学び九谷焼の再興に貢献する。その後、東京に移り住み、ご近所にいたフェノロサやドイツ人のワグネルなどとの交流を

通じて化学と文化の融合の基とする。

ここで、焼き物と化学について説明がなされた。焼成には酸化と還元があり、前者は黄色に後者は青色に焼きあがる。

還元方法とは、窯に一酸化炭素を注入して酸素と反応させて酸素を取り除く方法で、これにより美しい青磁となる。一酸化炭素の注入方法については、ガス注入が簡単であるが、蘇山は薪による投入方法をとっていると話された。

初代の話に戻りますが、焼成方法を完成させた初代は、再び北陸に戻られ作陶にうちこまれたが、作品を量産するため、原型を作り石膏で型取りする方法も考案された。原型を取り出すために石膏型を何分割かするのであるが、再組立てする際に間違わないように一個づつ番号や記号をつけている。たとえば、四十のうちの三と書いてあれば四十の分割片を揃えなければその作品はできないことになる。それらの石膏型は今も残っていて、学生ボランティアやインターンシップなどにより少しづつ整理されているとのこと。そして、初代は請われて京都に移り住み現在に至っているとのこと。

いよいよ四代目蘇山さんご自身の話になる。お父様は三代目諏訪蘇山、お母様は十二代目中村宗哲という芸術家ご一家の三姉妹の末っ子として誕生された。ご本人曰く、「当然、姉たちが後を継ぐものと思っていた。でも一応、漆芸・造形・陶工成形・陶磁器コースなどを学んでいた」と。しかし現実はそのとならず、長姉はお嫁に行かれ、次姉は母方の中村家を継ぎ、ご自分がお父様と共に陶磁器の制作活動をし、二〇〇二年に四代目諏訪蘇山を襲名されることになる。造り酒屋



だった家を改装した現在の工房の写真も紹介してくださった。今回はご自分の作品の原型と石膏型取りしたものをお持ちくださり、焼成前後の大きさの違い、分割した石膏型からの作品の取り方など実際に触らせていただいた。青磁だけでなく、色土を重ねて一気に口クロで引き揚げて成形した作品も見せていただいた。

また、お母様の発題で、それに因んだものを制作し四人展をしている様子もプロジェクトで紹介してくださった。ご一家で創作活動をされている様子に羨ましいほどの絆を感じました。

初代のこと書かれた和綴じの本をいつも傍に置き、初代の思いに添うように作陶に励んでいきたいとお話しを結ばれました。陶芸のお父様、漆芸のお母様に育まれた四代目諏訪蘇山さんの素晴らしき講演でした。

中條文化振興財団

茶室設立二十周年記念茶会

「武者小路千家の春」——その伝統的職分家と共に——

当財団の茶室「美藻庵」、「晴松亭」は、おかげさまで来年設立二十周年を迎えます。

そこで、二十周年記念として様々な茶会を企画しております。その第一弾といたしまして、香川県にご縁があり、二十年前にも、茶室の席披きをお願いしました武者小路千家のお家元、不徹斎千宗守宗匠が、初春に相応しいお釜を懸けて下さる事になりました。また、伝統的職分の方々にもお声掛けくださり嬉しい財団の記念茶会となりましたので、ご案内させていただきます。

お家元からのご案内

新年早々の初釜の行事を終えて、一息付き早や二月、しかしこの月の初めには、本来の意味での新春、謂わゆる「立春」がやって来ます。京の地は、その初釜の後の、一月下旬の頃が一年中で最も寒気が厳しく、やっとこの二月の立春を迎えて、そろそろ春の魁を感じる様になります。

古来より謂われる「一陽来復」、即ち名実共に新春を迎えるのです。只今でも中国等ではこの時節を「春節」として大いに祝福し、我国のお正月の様な諸行事がある事もよく御存知の通りです。この本来の正月を祝って茶の湯の世界でも「春の訪れ」を慶ぶ茶会が多く開かれます。今度はその旧来からの「一陽来復」を寿いで取り合わせで茶会を考えてみました。

本席を家元が担当し、薄茶席の方は、家元と共にその歴史を歩んで来た関西在住の職分家当主連によって流儀を代表する諸道具を取り合わせての試みを行います。

どうぞ流派にこだわらずお誘い合わせて初春の茶会をお楽しみ下さい。

職分の皆様のご紹介

【木津家ト深庵】

初代木津松斎宗詮が大坂で茶家を起こして本年平成二十八年で二百四年となる。武者小路千家八世一嘯斎に、江戸で入門。やがて不昧より「寒松一色千年別」の大横物掛物を拝領、「ト深庵」「寒松軒」号をい

ただき帰阪。大坂に武者小路千家流の茶家を起こし現代七代桜斎宗詮に到る。三代聿斎宗詮は父得浅斎から伝授を受け一指斎、平瀬露香に薫陶を受け、一指斎没後には、十二代愈好斎が幼少のため家元預

かりとなった。

その後、四代花笑斎、五代柳斎と続く。六代宗詮（一九四三）は不徹斎より「徳至斎」の号をいたたく。昭和四十九年有隣斎に入門。以来機関紙「武者小路だより」「起風」の発行等にたずさわる。

七代宗詮（一九六一）当代宗詮、不徹斎宗守より桜斎の号をいたたく。平成二十五年図書「千一翁宗守一宗旦の子に生まれて」発刊。同二十七年十一月「木津宗詮——武者小路千家とともに」発刊。

【佐伯家蓼花庵】

初代佐伯江南斎（天保十四年〜大正二年）名は久兵衛のち久作 号蓼花庵。大阪玉造の豪商家に生まれた国学者、佐々木春夫との縁から一指斎に入門し、玉造に茶室蓼花庵（りようかあん）を営み、武者小路千家の茶匠となるまた遠州流華道も究め、その当時、全国に広がりをもてた遠州流華道の本部機能を果たすべく遠州流本部となる。元大阪朝日新聞社の記者。

二代江南斎名は寿賀子のち紅香。

三代江南斎名フミのち芳娥。

四代江南斎（昭和十八年〜）名は良一。表千家の木村家の四男に生まれ、十八歳で佐伯家の後嗣として三代の養子となり、昭和四十年に有隣斎に入門、昭和五十五年に

財団行事予定

（十二月〜二月）

十一月

◆書道教室 毎月第一・第三金曜日
森本義人先生

十二月二日（金）・十六日（金）午前十時〜十二時

◆懐石講座 三友居 山本勝先生

十二月六日（火）午前十一時・午後三時

◆和菓子講座 高橋初乃先生

十二月九日（金）午前十時〜十二時

◆十二月釜「夜咄」

日時 十二月十一日（日）

処 美藻庵 晴松亭（当財団茶室）

席主 武者小路千家 中條晴之

武者小路千家 原 大策

武者小路千家 山本 亘（五十音順）

点心 県産品の特製料理 永楽亭

ご好評につき満席となりました。

◆月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

十二月二十日（火）午前十時〜午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆ヤングヤング（子供茶の湯講座）

毎月第二・第四土曜日

山下純子先生

十二月十日（土）・二十四日（土）午後一時〜

一月

◆和菓子講座 高橋初乃先生

一月十三日（金）午前十時〜十二時

◆月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

一月十七日（火）午前十時〜午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です

◆書道教室 森本義人先生

一月二十日（金）・二十七日（金）午前十時〜十二時

いつもと違うクリスマスはいかが

バレンタイン、イースター、ハロウィン、クリスマス、外国のイベントがすっかり定着してきました。しかしいつもいつもケーキというのも代わり映えしません。

何か無いかな?と探したらこんなクリスマスデザートがありました。求肥やきんとん、饅頭で作った和生菓子です。

雪だるまにサンタさん、ツリーにベル。今年はサンタさんのデザインが変わるそうですが、どれもかわいくて子供達にも喜ばれそうです。

作っているのは高松にある老舗和菓子店の三友堂さん。木守で有名ですが、こんな遊び心のあるお菓子も作っていました。

写真のセットは予約になりますが、白いツリーとトナカイもあって、それは当日でも手に入るそうです。

予約は20日頃までにご利用しますとの事でした。

今年のクリスマスはお茶に和菓子で静かなイブを過ごしてみるのもいいかもしれません。



くにももの (24)

讃岐三白・砂糖

お米が経済の基盤だった江戸時代、各藩は現金収入になる殖産事業に励み、それぞれ地方色豊かな特産品を育てあげました。わが郷土で、讃岐三白と言われた塩、砂糖、綿などはその代表的なものでしょうか。

砂糖にまつわる伝承話は、薩摩から四国巡礼に來た関良助が旅の途中で病に倒れるため、国禁を破ってひそかに砂糖黍の苗を持ち出し、二人で砂糖作りを完成させたと言います。徳川八代將軍吉宗が各藩に砂糖黍の苗を配って砂糖作りを奨励したという資料もありますが、天下の台所・大坂でだいにもてはやされた讃岐産の白い和三盆糖には、弘法大師のご利益に導かれた南国の草が温暖な讃岐に根付いたという古老の話が似合います。

四国民家博物館「四国村」には伝統産業施設として、農家にあつた搾汁のための砂糖しめ小屋が移築され、訪れる人に往時の砂糖作りの様子を語り続けています。



乱飾を拝受。昭和五十七年江南齋を襲名し茶道の普及に勤める。

平成二十二年、不徹齋より道名「宗江(そうこう)」を授かる。元財団法人官休庵常任理事。

久徳(昭和四十六年)。四代江南齋の長男に生まれ、平成十年に不徹齋に入門。十三年間の水屋修行を経て、平成二十八年五月に乱飾を拝受。

【芳野家松庵】

初代芳野宗春は明治二十九年に生まれ、大阪市に出生。大正十四年に愈好齋に弟子入り。昭和十五年に乱飾相伝を頂く。戦前より愈好齋に随行し、度々渡讃し現在三代に至るまで深く高松に縁を頂く。戦中に大阪紅梅町より愈好齋を慕い京都に住まいを移す。戦後直ぐに茶室を作り、愈好齋に松庵と命名頂く。昭和四十六年有隣齋より皆伝を頂く。

二代宗春は昭和三年生まれ。昭和二十三年愈好齋に入門。四十年に有隣齋より相伝を頂く。愈好齋より不徹齋まで三代に渡り仕え、不徹齋より皆伝を頂く。

芳野宗春(昭和三十六年生) 昭和五十九年三月、大阪市立大学文学部国語国文学科卒。同年四月、武者小路千家十三代有隣齋に入門。十四代不徹齋の海外での茶の湯普及などに度々随行。平成十八年三月、武者小路千家幹部職分格 芳野家の三代宗春を継承。平成二十三年三月、公益財団法人官休庵理事就任。

■茶席ご案内

日時 平成二十九年二月五日(日)
濃茶 武者小路千家 第十四代家元 千宗守

薄茶 木津家ト深庵

佐伯家蓼花庵

芳野家松庵

京都 柿傳

点心

会費

(表・武者小路両千家御用達)
三万円(詳細は財団行事予定に記載)

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

一月十四日(土)・二十八日(土) 午後一時～

◆一月

◆書道教室 森本義人先生

二月三日(金)・十七日(金) 午前十時～十二時
初釜

日時 二月五日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 武者小路千家

第十四代家元 千宗守

薄茶 木津家ト深庵

佐伯家蓼花庵

芳野家松庵

京都 柿傳

(表・武者小路両千家御用達)

会費 三万円

入席時間ご案内(各席十五名)

第二席 九時 第二席 九時五十分

第三席 十時四十分 第四席 十一時三十分

第五席 十二時二十分 第六席 十三時十分

第七席 十四時 第八席 十四時五十分

各席二時間三十分を予定

◆和菓子講座 高橋初乃先生

二月十日(金) 午前十時～十二時

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

二月二十一日(火) 午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

二月十一日(土)・二十五日(土) 午後一時～

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要ですが、お申し込み、お問合わせは、当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一一十二

☎(087) 8266・3355

茶 華 道 ガ イ ド

安部流洗心会四国支部 ☎(0877)86-3442

1/22 第63回日本伝統工芸展協賛茶会
 席主：安部流洗心会四国支部
 県立ミュージアム2階西側ロビー
 600円 9:30~15:30

表千家同門会香川県支部 ☎(087)845-4638

12/4 中讃春秋茶会 席主：富田宗久
 丸亀市生涯学習センター 600円 9:00~15:30
 1/21 第63回日本伝統工芸展協賛茶会
 席主：明石春香 香川県立ミュージアム
 600円 9:30~15:30
 2/12 東讃四季茶会 席主：古賀宗敬
 中條文化振興財団 600円 9:00~15:00

香川大学表千家流茶道部 ☎(080)6348-0559

12/18、1/15、2/19
 月釜 龍光塾 500円 10:00~14:00

嵯峨御流華道香川司所 ☎(087)822-1070

12/2~4 嵯峨御流いけばな展 創立90周年記念華展
 席主：香川司所
 玉藻公園披露間 無料 10:00~16:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)58-9551

12/4 多度津分会 月釜 席主：村井宗美
 多度津町福祉センター2F
 500円 10:00~15:00
 12/4 善琴分会 月釜 席主：和善会
 樟蔭軒 500円 9:00~14:00

12/11 丸亀分会 月釜 席主：河野静
 市民会館 500円 10:00~15:00
 1/22 善琴分会 月釜 席主：安井宗善
 樟蔭軒 500円 9:00~14:00
 2/5 坂出分会 月釜 席主：北地宗多
 勤労福祉センター 500円 10:00~14:00
 2/12 善琴分会 月釜 席主：豊泉会
 樟蔭軒 500円 9:00~14:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087)861-3136

12/11 高松支部青年部チャリティ茶会
 席主：青年部 中野天満宮
 前売1,000円・当日1,100円 10:00~15:00
 2/5 月釜 席主：植村宗民 中野天満宮
 前売600円・当日700円 9:00~15:00

東讃茶道懇話会 ☎(087)898-0391

1/22 月釜 席主：表千家流 萌生会
 池辺西徳寺 500円 9:00~15:30

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

1/22 香川官休会月釜 席主：嶺松会
 無量寿院 600円 9:00~15:00

武者小路千家官休庵青年部香川支部 ☎(090)2784-0366

3/11、25 浴衣作り [3~6月の第2・4(土)]
 講師：平賀博子(師範) ふくや呉服店2F
 要事前申込・定員10名・45歳迄
 5,000円(材料費別) 14:00~16:00

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087)879-0717

<由佐城月釜茶会>

第2研修室 当日500円 9:30~14:00
 12/18 席主：土居宗律(裏千家 高畑宗稔社中)
 2/19 席主：金澤志保(煎茶道三癸亭賣茶流)

栗林公園内花園亭 ☎(087)831-5255

2/5 花園亭節分茶会 席主：石州流 白川和美
 3,000円(節分点心付) 9:00~15:00

中條文化振興財団 ☎(087)826-3355

12/11 12月月釜「夜咄」 6,000円
 席主：武者小路千家
 中條晴之、原大策、山本 亘(五十音順)
 2/5 初釜 30,000円
 濃茶：武者小路千家 第十四代家元 千宗守
 薄茶：木津ト深庵家 佐伯夢花庵家 芳野松庵家
 点心：京都 柿傳(表・武者小路両千家御用達)

以上の茶会はいずれも点心席を含みます。
 詳細は、財団行事予定をご覧ください。

イ ベ ン ト ガ イ ド

坂出市建設経済部産業課にぎわい室 ☎(0877)44-5015

2/11~12 第27回坂出天狗まつり 松山小学校、
 JA香川県松山支店、相模坊、白峯寺、
 林田運動公園 11:00~
 12日：第23回坂出天狗マラソン大会
 林田運動公園 9:00~
 2/26 さかいで里山めぐり・冬の城山編
 坂出市観光案内所 9:00~
 3/4 さかいで里山めぐり・常山編
 坂出市観光案内所 10:00~

坂出市教育委員会文化振興課 ☎(0877)44-5036

12/18~1/29 岡山富男の彫刻「逃げた動物たち」
 坂出市内 時間随時
 2/25~26 アンドロイド演劇『さようなら』
 坂出市民ホール
 25日18:00~、26日10:00~
 2/18~19 実在する店のエピソードが演劇に！
 「坂出ミセモノガタリ」(仮称)
 坂出市商店街 時間・料金未定

坂出市民ホール ☎(0877)45-1505

12/24 瀬戸フィルハーモニー交響楽団
 クリスマスコンサート 時間未定
 2/4~5 花き展示品評会 9:00~

坂出市民美術館 ☎(0877)45-7110

12/3~11 坂出市民美術展覧会 9:00~
 12/17~18 生活文化展 9:00~
 1/7~29 坂出サーカス美術館展 9:00~
 2/3~5 坂出市保育所ブロック会
 「第46回幼児画展」 9:00~
 2/16~19 第38回毎日児童生徒書き初めコンクール
 9:00~
 3/7~26 第31回現代仏像彫刻展 9:00~

かまどホール ☎(0877)46-2178

12/3~25 北岡省三 漆芸・木工8人展 10:00~
 1/2~29 さくら窯 賢農美重子 作陶展 10:00~
 2/4~3/12 水彩画 山口一郎展 10:00~

サクラトたどつ(多度津町民会館) ☎(0877)33-3330

12/11 ほっとコンサート！Vol.12
 VIOLIN&PIANO DUO 14:00~
 12/17 第3回アンサンブル発表会
 多度津町立多度津中学校吹奏楽部
 2Fホワイエ 10:00~
 1/21 宝くじ文化公演 オーケストラで奏で
 る心に響く懐かしき名曲~スペシャル
 ゲスト秋川雅史を迎えて~ 18:30~
 1/29 ほっとコンサート！Vol.13
 林家菊丸独演会 2Fホワイエ 13:30~
 2/18 劇団四季ファミリーミュージカル
 「王子とこじき」 18:00~

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877)24-7755

~2/12 [企画展] 猪熊弦一郎展「私の履歴書」|
 後編 東京/ニューヨーク 10:00~
 会期中の日曜
 キュレーターズ・トーク 14:00~
 ~2/12 [常設展] 猪熊弦一郎展
 バランス 10:00~
 1/22・29 子ども~大人向け にじんで染まる
 かんたん絵具染め
 対象：22日(小学生)、29日(中学生
 ~大人)2階造形スタジオ 10:00~
 (各日定員20名・要申込・締切1/12必着)
 2/4・5 親子向けワークショップ
 遊ぼう！水彩絵具と土ねんど
 2階造形スタジオ 10:00~

2/25~5/28 [企画展] 開館25周年記念 MIMOCA
 コレクション じつはいろいろある
 んです！(仮称) 10:00~
 会期中の日曜
 キュレーターズ・トーク 14:00~

2/25~5/28 [常設展] 猪熊弦一郎展(仮称) 10:00~

丸亀市民会館 ☎(0877)23-4141

12/18 2016まるがめ第九演奏会
 大ホール 14:00~
 12/26 市民が主役の舞台芸術発表
 冬の祭典2016「アンサンブルの輪」
 大ホール 10:00~(予定)
 1/29 第15回 まるがめクラシックギャラリー
 コンサート 大ホール 14:00~
 2/5 市民が主役の舞台芸術発表
 冬の祭典2017「香川吹奏楽の日」演奏会
 大ホール 13:30~
 2/19 市民が主役の舞台芸術発表
 冬の祭典2017「新春・和の祭典」
 大ホール 10:00~(予定)

あーとらんどギャラリー ☎(0877)24-0927

12/3~27、1/7~2/5
 様々な邂逅ーらんどフェア展 10:00~

ぎやらりい風 ☎(0877)86-2112

12/5~11 第9回讃歌絵画研究会展 油絵の浮世絵 10:00~

灸まん美術館 ☎(0877)75-3000

12/2~6 父・娘・孫 四人展 9:00~
 12/9~13 幸墨 筆文字の世界 感謝をこめて 9:00~
 12/16~20 佐武久美子 絵画展 9:00~
 12/23~27 黒田陶房展 9:00~

イベントガイド

香川県立ミュージアム ☎ (087)822-0247

＜瀬戸内国際芸術祭2016＞
～12/24 関連 特別企画展覧会 れきみん×東京藝大
セクション展 瀬戸内のくらし ハレとケ
常設展示室4・5 9:00～●

＜瀬戸内海歴史民俗資料館＞
～12/11 型の造形・デザイン 9:00～■

レクザムホール ☎ (087)823-3131

2/11 第17回ジュニア・コーラス・フェスティ
バル2017 大ホール 13:30～■

高松市歴史資料館(サンクリスタル高松) ☎ (087)861-4520

～12/18 第72回企画展「藩校・講道館(仮称)」
高松藩校講道館の歴史と講道館に学んだ
人々の資料を通して近世から近代にかけ
ての高松の教育を紹介 9:00～●
2/4～4/9 収蔵品展「奥の坊遺跡の世界ー屋島周辺
の弥生時代中期の大規模集落ー(仮称)」
(内容) 屋島周辺の弥生時代中期に注目
し、その中心集落である奥の坊遺
跡等を紹介 9:00～●

菊池寛記念館(サンクリスタル高松) ☎ (087)861-4502

＜文芸講座＞ 先着80人 3階第1集会室 13:30～■
12/3 「菊池家と藩校講道館」 講師: 田山泰三
1/7 「ざいひつ『文章教室』の現場から・2」
講師: 篠永哲一
2/4 「ことばのちから」 講師: 多田達代
3/4 「讃岐と写楽(写楽は讃岐の豪商だった)」
講師: 安藝育子

高松市生涯学習センター ☎ (087)811-6222

12/1 ビーズステッチ教室～2Wayネックレス～
実習室 13:30～●
12/2 七宝焼で作る素敵なアクセサリ教室
～アンティーク調七宝ネックレス～
実習室 13:30～●
12/2, 9, 16 作法の源流を探る
小研修室・和室 10:00～●
12/3 朗読で脳を活性化!! ～読む人、聞
く人募ります～ 大研修室 13:30～■
12/7, 14, 21 古典文学講座「方丈記」をもう一度読む
第4部 大研修室 10:00～■
12/22 まなび映画CAN⑨ マイ・シスターズ・
キッズ 多目的ホール 13:30～■
1/9 新春男前(イケメン) 寄席
多目的ホール 13:30～■

栗林公園観光事務所 ☎ (087)833-7411

2/18, 19 第10回 栗林公園 梅まつり
栗林公園内梅林 10:00～●

玉藻公園 ☎ (087)851-1521

12/1～1/31 まつぼっくりツリー 展示 水門付近
1/1～3 玉藻公園年始無料開放
1/2 第6回書初め大会 披雲閣
1/3 第9回高松城新春かるた大会 披雲閣
1/9～22 書初め展 披雲閣
2/4 菊作り講習会 披雲閣

高松市文化財課 ☎ (087)839-2660

12/1 柴野栗山210年祭 栗山記念館 9:00～■
1/1～3 玉藻公園年始無料開放(重要文化財の
一般公開等、各種イベントを実施)
玉藻公園
1/3 第38回水任流新春初泳ぎ大会
大の場海岸 10:00～■
＜ふるさと探訪＞ 集合場所未定 9:30～■
12/18 六条から由良を歩く(予定)
1/22 中央公園とその周辺の野外彫刻を訪ね
る(予定)
2/26 旧道沿いに国分寺を歩く(予定)
＜探究!たかまつ遺産 人・もの・場から高松の歴史と地域を考える!＞
12/17 第4回 現地見学会(津田古墳群)
時間・場所未定
1/21 第5回 屋島の魅力再発見 高松市中
央図書館3階視聴覚ホール 10:00～■
2/19 第6回 銅鐸はなぜ壊れたのか(仮)
高松市中央図書館3階視聴覚ホール 10:00～■

高松市文化芸術振興課 ☎ (087)839-2636

2/12 高松演劇フェスティバル 岐阜県立岐阜
農林高等学校「Is(あいす)」 サンポー
ホール高松 第1小ホール 11:00～●

NHKふれあいギャラリー ☎ (087)825-0160

12/6～11 第10回NHKカルチャー漢字書道教室作品展
NHKカルチャー漢字書道教室(A・B)
9:30～■
1/10～15 春を迎えて(折り紙作品、おひなさまを
中心に) 四角オリガミ 9:30～■
1/17～22 第21回創祥会書道展 9:30～■
1/24～29 秘達の写真展 フォトクラブ彩光 9:30～■
2/14～19 讃岐彫 一宮讃岐彫同好会 9:30～■
2/28～3/5 詩と絵が会おう詩集絵本「いっしょに2016」
高松ボランティア協会 9:30～■

高松三越 美術画廊 ☎ (087)825-0738

～12/5 中西繁 油彩画展 10:00～■
12/6～12 大端溪硯展 10:00～■
12/13～19 曆展 10:00～■
12/20～26 寿ぎの掛軸展 10:00～■
12/27～31 干支置物と歳末絵画展 10:00～■
1/3～9 近代現代陶芸秀作展 10:00～■
1/10～16 中野大輔 日本画展 10:00～■
1/17～22 笠井誠一展 10:00～■
1/24～29 金工作家 井尾健二展 10:00～■
1/31～2/6 香川県美術家協会小品展 10:00～■
2/7～20 美術絵画特選会 7～13日(第1週)、
14～20日(第2週) 10:00～■
2/21～27 世界の版画芸術 10:00～■
2/28～3/6 今泉尚樹 絵画展 10:00～■

ギャラリーen ☎ (087)851-3711

12/7～17 八代淳子 漆展 10:00～■
2/21～26 市松人形展 10:00～■

珈琲倶楽部 櫻 ☎ (087)823-0160

12/10 クラシックチェロコンサート
片山智夫 13:30～、15:30～●
12/15～27 冬・あれこれ展 10:00～■
2/4～26 キッチン展
おとなぬいぐるみ/Part2 10:00～■

内町ギャラリー Tamamo ☎ (087)822-1037

～12/4 「坂雅子BAG&アクセサリ展」
シンプルで軽くオシャレなバッグと
アクセサリ。 10:00～■
12/7～11 Fur & Leather展～SUNRASCAL
「津田将志」の工房から職人の手仕事
で仕上げた作品多数を展示 10:00～■
12/13, 14 「手作り大好き作品展」 縫う、織る、
刺す等の手仕事グループ展 9:00～■
12/17～19 Quilt House Basil ギャラリー展
パッチワーク作品展 10:00～■
12/20～25 「安達聖子 染めて織る展」
織のバッグ、帯、タペリスト、染の
ストール 10:00～■
1/2～8 「松浦まき、さをり織展」 マフ、
ストール等小物100展 10:00～■
1/11～15 「Fur collection SUNRASCAL」 10:00～■
2/7～12 「ステンドグラス展」 田井秀樹 10:00～■
2/13～17 「生活骨董・ももたろうのお雛さま展」
9:00～■

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎ (087)879-0717

12/10～1/15 企画展「屋嶋城のものがたりー埋蔵文化
財展ー」2F市民ギャラリー 9:00～■
1/7 企画展関連講演会「屋嶋城のものがたり」
講師: 渡邊誠(高松市埋蔵文化財センター)
第1研修室 10:00～■
1/20～2/15 企画展「第16回 篆刻展」
2F市民ギャラリー 9:00～■
2/19～3/20 企画展「第16回 郷土の文化拓本展」
2F市民ギャラリー 9:00～■

高松市塩江美術館 ☎ (087)893-1800

～12/18 [平成28年度第II期常設展]
生きること、生きるもの 9:00～●

12/3～1/22 [企画展] 生誕100年
市原輝士ー伝承ー展 9:00～●
12/23～4/16 [平成28年度第III期常設展]
タイトル未定 9:00～●
1/28～2/26 [企画展] タイトル未定 9:00～●

高松市石の民俗資料館 ☎ (087)845-8484

12/2～11 共催展「師走展(前期)」
企画展示室 9:00～■
12/4 石民落語会「林家染太 独演会」
エントランスホール 14:00～■
12/9, 1/13, 2/10
古文書を読む会(8)～(10)
江戸時代の和歌等を読み解いて
講師: 加藤 優(元徳島文理大学教授)
講座研修室 14:00～教材費要
12/16～25 共催展「師走展(後期)」
企画展示室 9:00～■
12/17 ルタンティール サクソフォーン
カルテット 冬の調べ
～Happy X'mas For You～
エントランスホール 18:30～●
1/7～2/12 企画展「さぬきアートプロジェクト
ガボミ写真展 IN MURE」
企画展示室 9:00～●
2/28～3/26 企画展「収蔵品展(仮)」
企画展示室 9:00～■

土庄町教育委員会 ☎ (0879)62-7013

12/11 土庄町音楽フェスティバル
土庄町立中央公民館 13:00～■

さぬき市志度音楽ホール ☎ (087)894-1000

12/4 New Artists Recital Vol.23
「森西恵里奈ピアノリサイタル」 14:00～●
12/23 X'masコンサート 思い出の歌2016
with 浪漫ファイブ 18:15～●
12/26 平成28年度さぬき市地域活性化支援事業
平賀源内&東大CASTサイエンスショー
13:30～●
1/22 宝くじ文化公演 オーケストラで奏で
る 心に響く懐かしき名曲～スペシャ
ルゲスト秋川雅史を迎えて 14:00～●
2/19 New Artists Recital Vol.24
「西浦弘美ヴァイオリンリサイタル」
14:00～●

東かがわ市教育委員会生涯学習課 ☎ (0879)26-1238

＜東かがわ市交流プラザ＞
12/18 クリスマスコンサート
～陸上自衛隊第14部隊によるコンサート～
13:30～■★
1/22 宝くじ公演 オペラ「カルメン」
～日本語による公演～ 13:30～●
2/11, 12 東かがわ市交流プラザまつり
3/5 南ファミリー劇団公演 14:00～●

とらまるバベットランド ☎ (0879)25-0055

1/2～4 「とらまるバベットランドお正月イベ
ント」 とらまる座人形劇公演
とらまる人形劇団「ぼっけえばあさ
ん」他 人形劇をご観劇の方にあ
たたかい飲み物の振る舞い、セット
券お買い上げの方にオリジナルグッ
ズプレゼント 13:30～●
＜とらまる座人形劇公演＞ 人形劇場とらまる座
1/7～9, 2/11・12
とらまる人形劇団
「ぼっけえばあさん」他 13:30～●
2/21～26 よろず劇場とんがらし「おおいの
ちいさいの」他
21～24日 10:30～●、25～26日 13:30～●

坂出市建設経済産業課にぎわい室 ☎ (0877)44-5015

12/18, 1/15, 2/19
悲運の帝 崇徳上皇の足跡を追う
坂出市観光案内所 9:30～●
2/5 さかいで里山めぐり・城山岩編
坂出市観光案内所 9:00～●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表示は判明したもののみ)

上記予定は変更する場合があります。

「文化通心」第93号は3月1日発行です。次の期間(3月1日から5月末日)の情報を2月10日までにお知らせ下さい。 ☎ (087)826-2212

財団の活動報告とお知らせ

中條文化振興財団

中條文化振興財団・文化活動奨励事業

十月三日(月)、当財団におきまして、平成二十八年助成金交付団体認定書授与式を行いました。

今年度は、財団賞の該当がなく、助成金交付団体への認定書授与式のみ開催となりました。

岡市代表理事の挨拶の後、認定書の贈呈が行われ、続いて、認定を受けた皆様から活動の内容や事業の進捗状況について報告がありました。

式典終了後に行われた懇親会では、さらに詳しくお話を聞くことができ、助成金を有意義に活用されていることを実感致しました。

助成金の対象には、いろいろなジャンルがありますが、それぞれの事業を通じて、今後とも故郷香川の文化発展の為に貢献して下さいことを願っております。



塩飽大工顕彰会さんに助成金交付団体認定証を授与された。

平成二十九年年度

助成金応募受付中

■対象事業

平成二十九年四月一日から平成三十年三月三十一日までに実施予定の文化事業。詳しくは助成基準をご覧ください。

■応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。(HP参照)
応募締切は、平成二十九年一月末日。

■助成金

三十万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。
平成二十九年三月末までに結果をご連絡致します。

助成基準、所定の申請書等は、当財団ホームページよりご確認いただくか、事務局までお問合せ下さい。

財団助成金・後援の関連事業ご紹介

■瀬戸内サーカス・ファクトリー

第2回国際創作サーカスフェスティバル「SEETOラ・ピスト」が、十二月に開催。

①ヨーロッパ現代サーカスネットワークシルコストラダ来県記念シンポジウム「アートは地域をかえられるか？」
日時 15日14時から
場所 香川県立ミュージアム地階講堂。
参加無料。共催・香川県。

②イエト(ieto)公演
「アンバランスなバランス」
日時 15・16日19時30分から
場所 サンポートホール高松 第1小ホール
料金 前売三五〇〇円・当日四〇〇〇円

③ジエデラ(GDRA)×勘繰 創作公演
「エスプリ・憑りクルモノ・失われた場所」
日時 17日18時から・18日14時から
場所 サンポートホール高松 第2小ホール
料金 前売三〇〇〇円・当日三五〇〇円

④地元パフォーマーによる実験劇場
日時 18日11時から
場所 第2小ホールロビー
自由料金制

■西垣正信・クリスマスコンサート

「音楽と詩と踊り」

日時 十二月二十四日(土) 午後6時開演
場所 丸亀町レッツホール
料金 一般三〇〇〇円・学生一五〇〇円
主催 イ・ムジコフイリー(財団は後援)

■各公演ともチケットは財団事務局までお申し込み下さい。

編集後記

恒例の財団賞・助成金交付認定書の授与式が十月に行われました。残念ながら、今回は財団賞対象の方や団体はなく、助成金交付の認定書の授与の四件のみでした。

調査研究のためまた製本化のために、県内外に出かけ続けている塩飽大工顕彰会さん。若手の育成と技術の研鑽のために内外アーティストを呼び講習会を開く(一社)瀬戸内サーカスファクトリーさん。県出身の芸術家和田邦坊氏の作品の調査収集をし、カラー図版作成を目指す西谷美紀さん。住民を巻き込み、訪れた人々と共にまちあるきや会話をして町おこしを目指す仏生山まちプランニングルーム+ペピン結構設計さん。それぞれの活動成果が実りますようにと願っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017 高松市番町二丁目一―二
公益財団法人中條文化振興財団編集部
TEL (087) 826・3355
FAX (087) 826・2212
info@chujo-zaidan.or.jp